

(令和 4 (2022) 年度第 1 回栃木県企業局経営評価委員会説明資料)

令和 3 (2021) 年度 企業局経営戦略 進捗状況説明資料

〔目次〕

評価の方法	2
経営指標の算出方法	3
電気事業	4
水道事業	17
工業用水道事業	29
用地造成事業	41
施設管理事業	
県民ゴルフ場事業	52
賃貸ビル事業	62

栃木県企業局

【評価の方法】

1 財務面に係る評価

目標の達成状況

- ① 5か年合計での経常利益確保を目標とするもの
 → 目標値と決算累計値見込値を比較する。
 令和7年度の決算累計値見込値が、
- ・ 目標以上の経常利益を確保する見込みであればA評価、
 - ・ 目標とする経常利益を概ね確保する見込みであればB評価、
 - ・ 目標とする経常利益を確保できない見込みであればC評価とする。
- ② 毎期の経常利益確保を目標とするもの
 → 経常利益を確保すればA評価、経常損失の場合はC評価とする。

区分	評 価	
A	①目標達成（100%以上）	②目標達成（経常利益）
B	①目標を概ね達成 （80%以上～100%未満）	
C	①目標を下回る（80%未満）	②目標を下回る（経常損失）

2 事業面に係る評価

目標の達成状況

- ① 5か年合計での達成を目標とするもの
 → 各年度の計画累計値と実績累計値を比較する。
- ② 每期設定した計画業務量等の達成を目標とするもの
 → 毎期の目標値と実績値を比較する。

区分	評 価
A	目標達成（100%以上又は0件）
B	目標を概ね達成（80%以上～100%未満）
C	目標を下回る（80%未満又は1件以上）

3 総合評価

1をベースに、2及び事業の取組実績等を総合的に勘案して評価する。

区分	評 価
A	目標達成
B	一部未達成だが、概ね目標どおり
C	目標を下回る

【経営指標の算出方法】（単位：％）

1 経営資本営業利益率

経営に充てた資本により、どれだけ営業利益をあげたかを表し、高いほど収益性が良い。

$$\text{（営業収益－営業費用）} \div \text{経営資本} \times 100$$

※ 経営資本＝〔期首（総資産－建設仮勘定－投資）＋期末（総資産－建設仮勘定－投資）〕÷2

2 営業収支比率

経営活動の成否を判断する営業活動の能率を表し、高いほど収益性が良い。

$$\text{営業収益} \div \text{営業費用} \times 100$$

3 料金回収率

給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す。

$$\text{供給単価} \div \text{給水原価} \times 100$$

※ 給水原価＝〔経常費用－（受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附带事業費）－長期前受金戻入〕÷年間総有収水量

4 経常収支比率

経常的に行われる営業活動と財務活動を含めた企業活動の効率性を表し、高いほど良い。

$$\text{（営業収益＋営業外収益）} \div \text{（営業費用＋営業外費用）} \times 100$$

5 流動比率

短期的（1年以内）な支払能力を表し、高いほど経営の安全性と信用度が高い。

$$\text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100$$

6 自己資本構成比率

総資本に対する自己資本の割合であり、高いほど財務基盤は安定している。

$$\text{（資本金＋剰余金＋繰延収益）} \div \text{（資本金＋剰余金＋繰延収益＋固定・流動負債）} \times 100$$

7 有形固定資産減価償却率

償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す。

$$\text{有形固定資産減価償却累計額} \div \text{償却対象資産の帳簿原価} \times 100$$

8 管路経年化率

法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す。

$$\text{法定耐用年数を経過した管路延長} \div \text{管路延長} \times 100$$

9 管路更新率

当該年度に更新した管路延長の割合を表す。

$$\text{当該年度に更新した管路延長} \div \text{管路延長} \times 100$$

電 氣 事 業

令和3(2021)年度決算と経営戦略収支計画比較

会計名 電気事業

(単位:百万円、収益的収支は税抜表示、資本的収支は税込表示)

(1) 収益的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	料金収入	1,897	1,897	1,953	56	・料金収入は、FIT 発電所の販売増 等により増 非FIT分:9百万円増 FIT分:29百万円増 とちぎふるさと電気: 18百万円増
	その他収入	55	55	51	▲ 4	
	計	1,952	1,952	2,004	52	
支 出	人件費	458	458	399	▲ 59	・人件費は、職員 構成の若年化によ り減
	減価償却費	490	490	500	10	
	修繕費	282	282	180	▲ 102	・修繕費は修繕計 画の見直し等によ り減
	その他支出	1,064	1,064	1,061	▲ 3	
	計	2,294	2,294	2,140	▲ 154	
経 常 損 益		▲ 342	▲ 342	▲ 136	206	

剰余金残高	774		1,258	484	
-------	-----	--	-------	-----	--

・平成28年度からの積み上げによる(剰余金の処分は考慮しない)。

(2) 資本的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	借入金	1,943	1,943	296	▲ 1,647	・借入金は、工事 の進捗状況に合わ せて調整したため 減
	その他収入	1	1	9	8	
	計	1,944	1,944	305	▲ 1,639	
支 出	建設改良費	2,444	2,444	603	▲ 1,841	・建設改良費は、 工事の進捗状況に 合わせて調整した ため減
	借入金償還金	175	175	175	0	
	その他支出	37	37	29	▲ 8	
	計	2,656	2,656	807	▲ 1,849	
差 引		▲ 712	▲ 712	▲ 502	210	

借入金残高	3,847		1,945	▲ 1,902	
-------	-------	--	-------	---------	--

経営指標による経営状況

	収益性			安全性		老朽化の状況			
	経営資本 営業利益率	営業収支比率	経常収支比率	流動比率	自己資本 構成比率	有形固定資産 減価償却率			
	・経営資本でどれだけの営業利益を上げたかで、高いほど良好	・営業活動の効率で、高いほど良好	・経常的な企業活動の効率性で、高いほど良好	・短期的な支払能力で、高いほど経営基盤は安定	・総資本に対する自己資本の割合で、高いほど経営基盤は安定	・償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標			
	(単位:%)								
平成29年度決算値	1.69	113.75	112.42	787.90	84.20	64.66			
平成30年度決算値	2.02	118.03	116.73	793.68	80.85	65.32			
令和元年度決算値	2.15	119.22	118.78	851.44	80.30	66.14			
令和2年度決算値	2.38	119.58	118.51	862.68	80.90	62.56			
令和3年度決算値	▲ 0.55	95.60	93.67	917.90	79.52	63.46			
全国平均(令和2年度決算値)	-	133.80	134.60	666.30	80.60	62.00			
説明	<p>風見発電所の全面改修工事による発電停止のため、十分な料金収入を確保できず営業収支が赤字となった。そのため、事業の収益性を示す経営資本営業利益率、営業収支比率、経常収支比率の3指標は低い値となったが、当該工事は収益増加を目的とした計画的なものであり、工事終了後には固定価格買取制度(FIT)の適用を受けた料金収入を確保できるため、長期的に見れば経営状況は改善する見込みである。</p> <p>また、経営の安全性を示す自己資本構成比率は全国平均並みで、流動比率は全国平均を大幅に上回っており、経営基盤は安定しているといえる。</p> <p>一方、有形固定資産減価償却率では償却資産の減価償却が6割を超えて進んでいるが、これは日頃の保守点検によって各資産の劣化状況を把握し、更新計画に反映させながら順次更新に取り組んでいるところであり、特に問題はない。</p>								

※ 営業収支比率: 単年度営業収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 経常収支比率: 単年度収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 流動比率: 短期的に支払うべき債務を支払える現金等がある状況を示す100%以上が必要

電気事業 目標の達成状況

1 財務面に係る評価

目標の達成状況

	【目標】 財務基盤を強化するため、5か年で合計10億円以上の経常利益を確保します。
決算累計値	▲136百万円
評価	C
評価に係る説明	風見発電所全面改修工事の遅延により運転再開が遅れ、目標達成は厳しい見込みのためC評価としたが、6か年目のR8年度には合計10億円以上の経常利益を確保する見込み。 なお、R3年度決算では、FIT適用発電所の販売電力量の増や修繕費の減等により、赤字幅が大幅に縮小した。

2 事業面に係る評価

(1) 目標の達成状況

	計画業務量 (年間供給電力量)	各発電所の事故・ 故障等停止時間	一般会計への繰出額	
目標値	R3年度 183,000MWh	R3年度 各発電所72時間以内	5か年で累計350百万円 計画累計値 70百万円	
実績(累計)値	R3年度 182,303MWh	R3年度 102時間(1発電所のみ)	累計 82百万円	
評価	B	B	A	
評価に係る説明	取水ダム周辺の年間降水量が少なく(3ダム計平年比94%)、目標値をわずかに下回ったため(目標比99.6%)、B評価とした。	稼働中11発電所のうち1発電所(大下沢発電所)が目標を下回ったため、B評価とした。	とちぎふるさと電気の販売が好調で繰出額が増えたため、A評価とした。	

風見発電所全面改修事業の進捗と改修後の経常損益について

R4 (2022). 8. 29
企業局電気課

- ◇ 風見発電所全面改修事業は、工事の遅延により運転の再開が令和6(2024)年3月となる見込み
- ◇ 工事の遅延に伴い令和5(2023)年度は料金収入が減少し電気事業の経常損益は赤字となるが、運転再開後20年間の料金収入(固定価格買取制度(FIT)適用)に変更はない

1 改修事業の進捗

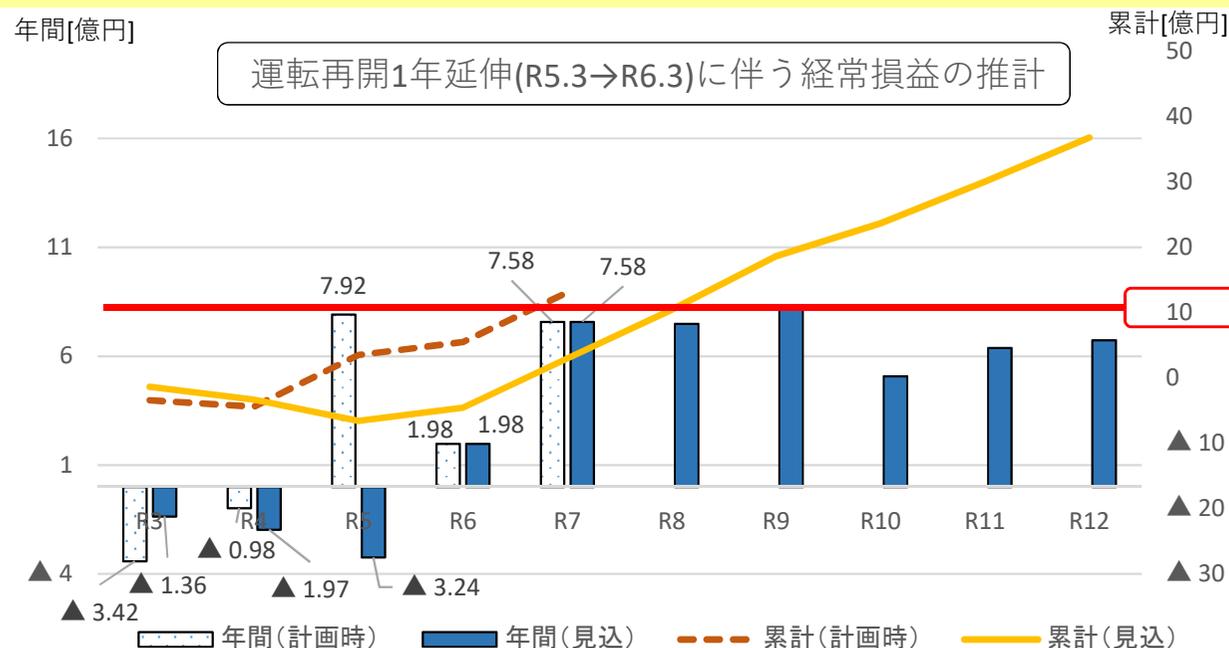
- 風見発電所(昭和39(1964)年4月運転開始)は設備の老朽化が著しいことから、固定価格買取制度(FIT)の適用を受け平成28(2016)年度から全面改修事業に着手した。
- 令和2(2020)年10月から発電を停止して現地工事に着手したが、撤去工事や建屋基礎部の配筋作業・コンクリート打設に時間を要したため工程を再度見直した結果、運転再開は令和6(2024)年3月となる見込み。

全面改修事業の概要

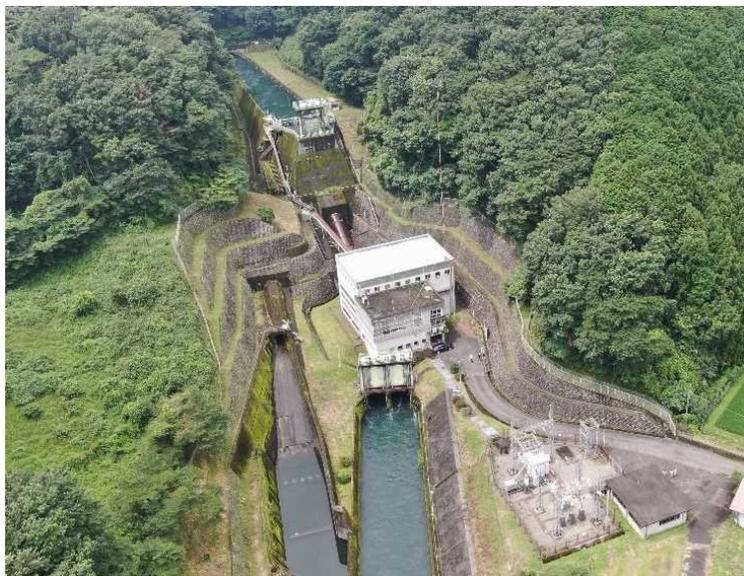
- 【事業箇所】 塩谷郡塩谷町風見山田614
- 【事業期間】 H28(2016)年度～R5(2023)年度
- 【総事業費】 約57億円(うち工事費約54億円)
- 【事業効果】 (税抜)
 - ・料金単価 9.76円/kWh→24.00円/kWh
 - ・年間料金収入 約5.6億円→約13.7億円

2 改修後の経常損益

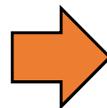
- 令和5(2023)年度の電気事業の経常損益は、赤字額が約3.2億円となる見込み。
- 令和6(2024)年度以降は損益が黒字となり、令和3(2021)年度から令和5(2023)の累積欠損金は令和6(2024)年度と令和7(2025)年度の純利益を充てることで解消できる見込み。
- 令和3(2021)年度からの6か年(令和8年度)で合計10億円以上の経常利益を見込む。
- 運転再開後20年間の料金収入(FIT適用、約273億円)は変更なし。



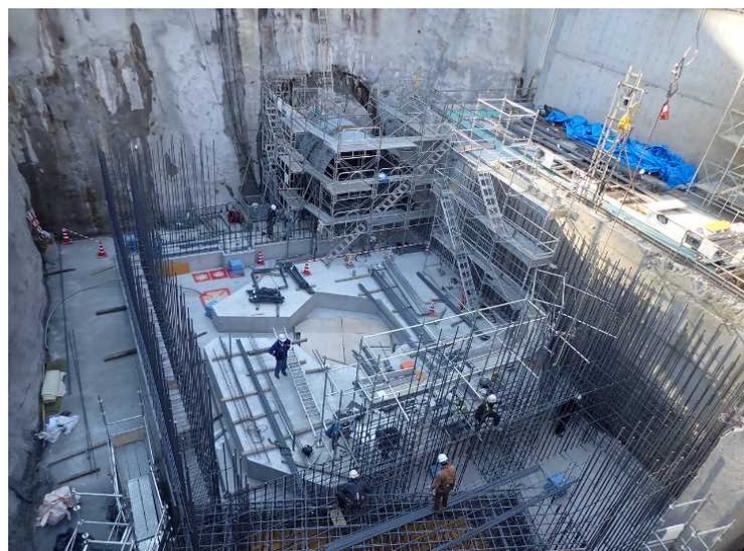
全面改修の状況



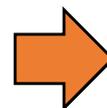
令和2(2020)年4月 更新前発電所全景



令和3(2021)年9月 建屋基礎解体完了



令和4(2022)年2月 ドラフト周りコンクリート巻き立て



令和4(2022)年8月 建屋鉄骨組立て

(2) 取組実績等

経営方針	令和3(2021)年度の実績	令和4(2022)年度の実績
ハード・ソフト両面の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○施設等の計画的な更新や耐震化 <ul style="list-style-type: none"> ▶川治第一発電所取水口ゲート巻揚装置更新(R2~R3) ▶足尾発電所水圧鉄管等詳細耐震性能照査 ▶板室発電所給排水バルブ更新 ▶木の俣発電所発電機固定子更新(R2~R4) ○業務継続体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶感染症対策の徹底、テレワーク・Web会議の推進 ○実践的な災害対応訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶ダムを対象とした洪水対応演習(5/12実施) ▶事故故障発生時の対応訓練(11/30,12/3実施) ▶発電所、ダムの油流出対応訓練(8/31,1/31実施) ▶地震発生時の対応訓練(8/31,3/17実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の計画的な更新や耐震化 <ul style="list-style-type: none"> ▶川治第一発電所屋外機器更新(R4~R5) ▶足尾発電所水圧鉄管等耐震補強詳細設計 ▶板室発電所屋外照明設備更新 ▶木の俣発電所発電機固定子更新(R2~R4) ○業務継続体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶感染症対策の徹底、テレワーク・Web会議の推進 ○実践的な災害対応訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶ダムを対象とした洪水対応演習 ▶事故故障発生時の対応訓練 ▶発電所、ダムの油流出対応訓練 ▶地震発生時の対応訓練
収益の確保と経費削減による財務基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な設備点検による電力の安定供給 <ul style="list-style-type: none"> ▶電気工作物保安規程に基づく設備の点検や測定試験 ○既設発電所全面改修(FIT適用)による収益力向上 <ul style="list-style-type: none"> 【風見発電所全面改修】 <ul style="list-style-type: none"> ▶主要機器の製作、水圧鉄管の更新 ▶撤去工事、建屋基礎部の配筋・コンクリート打設 ▶工事延伸により令和6(2024)年3月運転再開見込み 【深山発電所全面改修】 <ul style="list-style-type: none"> ▶主要機器製作据付等工事を発注 ▶水力設備実施設計業務委託を発注 ○供給電力量の増加に向けた改修方法の調査・検討 <ul style="list-style-type: none"> ▶業務委託により既設発電所の増電力量可能性を調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な設備点検による電力の安定供給 <ul style="list-style-type: none"> ▶電気工作物保安規程に基づく設備の点検や測定試験 ○既設発電所全面改修(FIT適用)による収益力向上 <ul style="list-style-type: none"> 【風見発電所全面改修】 <ul style="list-style-type: none"> ▶発電所建屋の建築、除じん機の据付等 【深山発電所全面改修】 <ul style="list-style-type: none"> ▶主要機器の設計製作、水力設備実施設計 ○供給電力量の増加に向けた調査検討 <ul style="list-style-type: none"> ▶板室発電所の供給電力量増加に向けた検討

経営方針	令和3(2021)年度の実績	令和4(2022)年度の実績予定
組織力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ▶外部研修会・講習会への参加 ▶内部研修の強化、OJTによる技術継承 ○保安の高度化や業務の効率化 <ul style="list-style-type: none"> ▶業務委託(R3～R4)によりタブレット端末を使用する点検システムを構築中 ▶ドローンを購入し高所等の点検に活用 ○業務に必要な人材確保 <ul style="list-style-type: none"> ▶電気事業における業務計画の着実な推進に向け、当該計画の業務量に応じた電気職・機械職を確保するため、大卒程度のほか、令和2(2020)年度に再開した高卒程度の採用を継続 ▶必要となる人員が確実に確保できるよう、次の取組を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・工業系高校訪問による電気事業の魅力等のPR (高校訪問 6月8校、1月5校、3月1校) ・技術職現場見学会の実施(9/1 Web実施) ・電気職PR動画を作成しYouTubeでも公開 	<ul style="list-style-type: none"> ○人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ▶外部研修会・講習会への参加 ▶内部研修の強化、OJTによる技術継承 ○保安の高度化や業務の効率化 <ul style="list-style-type: none"> ▶タブレット端末を使用する点検システムの本格運用開始 ○業務に必要な人材確保 <ul style="list-style-type: none"> ▶電気職・機械職を確実に確保できるよう、大卒程度及び高卒程度の採用に加え、R5(2023)年度から社会人を対象とした採用等の実施に向けた協議の推進 ▶採用の周知を図るため、以下の取組を継続 <ul style="list-style-type: none"> ・大学や工業系高校訪問による電気事業の魅力等のPR ・技術職現場見学会の実施 ・工業系高等学校のインターンシップ受入れ ・電気職PR動画のYouTube公開

経営方針	令和3(2021)年度の実績	令和4(2022)年度の実績
事業利益等を活用した 地域貢献の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ○とちぎふるさと電気による環境保全事業の支援 <ul style="list-style-type: none"> ▶1社2事業所と新たに契約、合計13社17事業所 ▶日光地域のEV急速充電器整備や那須・塩原地域のEバイク導入などを支援 ○地域振興積立金の活用によるSDGs関連事業の支援 <ul style="list-style-type: none"> ▶デジタルハブ事業やとちぎビジネスAIセンター運営などを支援 ○ダムカードや発電所カードの配布による水力発電所の観光資源としての活用 <ul style="list-style-type: none"> ▶ダムカード配布 2,261枚 ▶発電所カード配布 18,318枚 ○環境イベントへの参加 <ul style="list-style-type: none"> ▶植樹イベントへの苗木の寄付及びボランティア参加 ▶エコテックとちぎへの出展 	<ul style="list-style-type: none"> ○とちぎふるさと電気による環境保全事業の支援 ○地域振興積立金の活用によるSDGs関連事業の支援 ○ダムカードや発電所カードの配布、現地見学会による水力発電所の観光資源としての活用 ○環境イベントへの参加
SDGs 達成への貢献 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられる まちづくりを</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○水力発電による「クリーンエネルギーの供給」やとちぎふるさと電気の販売を通じた事業者の「温室効果ガス削減」への貢献 ○供給電量最大化による「脱炭素社会の実現」への貢献 ○洪水被害の防止・軽減を目的とした事前放流に伴う「治水対策」への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ○水力発電による「クリーンエネルギーの供給」やとちぎふるさと電気の販売を通じた事業者の「温室効果ガス削減」への貢献 ○供給電量最大化による「脱炭素社会の実現」への貢献 ○洪水被害の防止・軽減を目的とした事前放流に伴う「治水対策」への貢献

3 総合評価

自己評価等						
1 財務面に係る評価 目標の達成状況 ・風見発電所全面改修工事の遅延により運転再開が遅れ、目標達成は厳しい見込み。		(2)事業の取組実績等 ・深山発電所のFIT適用に向けた全面改修事業は、当初計画どおり工事の発注を行った。 ・とちぎふるさと電気は、カーボンニュートラル促進による企業ニーズの高まりもあり、新たに1社2事業所と契約を締結し、販売電力量も着実に増加した。				評価
2 事業面に係る評価 (1)目標の達成状況 ・年間供給電力量は、取水ダム周辺の年間降水量が少なかったことにより計画値を若干下回ったものの、概ね計画値どおりだった。						B
評価委員会の評価等						
・財務面について、5か年の目標達成が厳しい見込みとなったが、令和3年度において赤字幅を大幅に縮小したことは評価できる。					評価	
・事業面について、一般会計への繰出額は目標を達成できており、計画業務量及び停止時間についても概ね目標を達成できている。					B	
・令和3年度の取組実績として、施設等の更新や耐震化が計画どおり進められているほか、とちぎふるさと電気の新規契約締結等、地域貢献の拡充やSDGs達成への貢献が図られている。						
	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	
自己評価	B					
評価委員会の評価	B					

今後の取組課題・改善点等

- ・長期化する原油価格等高騰の影響下においても、電力を安定供給できる体制を確保する。
- ・風見発電所及び深山発電所の全面改修を着実に推進するなど、長期的な視点で施設を改修し、安定した料金収入を確保する。
- ・電力市場等の変化に的確に対応するなど、経営基盤の一層の強化に取り組む。
- ・持続可能な社会の実現に向けて、水力発電事業を通じたSDGs達成に貢献する。

○ 収支の状況

(1) 収益的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	料 金 収 入	計 画 額		1,897	1,951	3,202	3,156	3,381
		当 初 予 算 額		1,897				
		決 算 額	2,269	1,953				
	そ の 他 収 入	計 画 額		55	55	55	55	55
		当 初 予 算 額		55				
		決 算 額	65	51				
支 出	人 件 費	計 画 額		458	419	484	495	495
		当 初 予 算 額		458				
		決 算 額	412	399				
	減 価 償 却 費	計 画 額		490	539	698	771	840
		当 初 予 算 額		490				
		決 算 額	484	500				
	修 繕 費	計 画 額		282	326	412	600	376
		当 初 予 算 額		282				
		決 算 額	190	180				
	そ の 他 支 出	計 画 額		1,064	820	871	1,147	967
		当 初 予 算 額		1,064				
		決 算 額	883	1,061				
経 常 損 益	計 画 額		▲ 342	▲ 98	792	198	758	
	当 初 予 算 額		▲ 342					
	決 算 額	365	▲ 136					
剰 余 金 残 高			1,377	1,258				

・平成28年度からの積み上げによる(剰余金の処分は考慮しない)。

(2) 資本的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	借 入 金	計 画 額		1,943	1,993	750	0	0
		当 初 予 算 額		1,943				
		決 算 額	131	296				
	そ の 他 収 入	計 画 額		1	1	1	1	1
		当 初 予 算 額		1				
		決 算 額	7	9				
支 出	建 設 改 良 費	計 画 額		2,444	2,205	2,119	1,461	705
		当 初 予 算 額		2,444				
		決 算 額	637	603				
	借 入 金 償 還 金	計 画 額		175	109	212	153	118
		当 初 予 算 額		175				
		決 算 額	184	175				
	そ の 他 支 出	計 画 額		37	42	42	42	42
		当 初 予 算 額		37				
		決 算 額	11	29				
差 引	計 画 額		▲ 712	▲ 362	▲ 1,622	▲ 1,655	▲ 864	
	当 初 予 算 額		▲ 712					
	決 算 額	▲ 694	▲ 502					
借 入 金 残 高			1,823	1,945				

○ 経営指標による経営状況

(単位:%)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
経営資本営業利益率	決算値	2.38	▲ 0.55				
営業収支比率	決算値	119.58	95.60				
経常収支比率	決算値	118.51	93.67				
流動比率	決算値	862.68	917.90				
自己資本構成比率	決算値	80.90	79.52				
有形固定資産減価償却率	決算値	62.56	63.46				

○ 財務面に係る目標の達成状況

(単位:百万円)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
5か年で合計10億円以上の 経常利益を確保	計画累計値		▲ 342	▲ 440	352	550	1,308
	決算累計値		▲ 136	(▲ 333)	(▲ 657)	(▲ 459)	(299)
	評価		C				

※ 括弧書きは現時点における見込値

○ 事業面に係る目標の達成状況

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
計画業務量 (年間供給電力量)	目標値		183,000MWh	186,000MWh	227,000MWh	223,000MWh	245,000MWh
	累計値	219,181MWh	182,303MWh				
	評価		B				
各発電所の事故・ 故障等停止時間	目標値		72時間	72時間	72時間	72時間	72時間
	実績値	5時間	102時間				
	評価		B				
一般会計への繰出額 5か年で累計350百万円	計画累計値		70百万円	140百万円	210百万円	280百万円	350百万円
	実績累計値	41百万円	82百万円				
	評価		A				

水道事業

令和3(2021)年度決算と経営戦略収支計画比較

会計名 水道事業

(単位:百万円、収益的収支は税抜表示、資本的収支は税込表示)

(1) 収益的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	料金収入	1,815	1,815	1,828	13	
	その他収入	51	51	100	49	・その他収入は、 受託事業の実施 及び一般会計から の負担金の増等により増
	計	1,866	1,866	1,928	62	
支 出	人件費	248	248	257	9	
	減価償却費	699	699	684	▲ 15	
	修繕費	186	186	126	▲ 60	
	その他支出	666	666	617	▲ 49	
	計	1,799	1,799	1,684	▲ 115	
経 常 損 益		67	67	244	177	

剰余金残高	1,534		1,952	418	
-------	-------	--	-------	-----	--

・平成28年度からの積み上げによる(剰余金の処分は考慮しない)。

(2) 資本的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	借入金	0	0	0	0	
	その他収入	1	1	0	▲ 1	
	計	1	1	0	▲ 1	
支 出	建設改良費	468	468	402	▲ 66	・建設改良費は、 工事の進捗状況に 合わせて予算を翌 年度に繰り越した ため減
	借入金償還金	118	118	116	▲ 2	
	その他支出	8	8	0	▲ 8	
	計	594	594	518	▲ 76	
差 引		▲ 593	▲ 593	▲ 518	75	

借入金残高	362		364	2	
-------	-----	--	-----	---	--

経営指標による経営状況

	収益性				安全性		老朽化の状況		
	経営資本 営業利益率	営業収支比率	料金回収率	経常収支比率	流動比率	自己資本 構成比率	有形固定資産 減価償却率	管路経年化率	管路更新率
	・経営資本でどれだけの営業利益を上げたかで、高いほど良好	・営業活動の能力で、高いほど良好	・給水費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す指標	・経常的な企業活動の効率性で、高いほど良好	・短期的な支払能力で、高いほど経営基盤は安定	・総資本に対する自己資本の割合で、高いほど経営基盤は安定	・償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標	・法定耐用年数(40年)を超えた管路延長の割合を表す指標	・当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標
	(単位:%)								
平成29年度決算値	1.57	119.26	120.79	121.64	1,716.86	84.38	58.92	32.87	0.00
平成30年度決算値	1.27	115.27	117.31	118.23	3,351.55	87.12	57.66	37.99	0.00
令和元年度決算値	1.57	119.52	121.88	121.59	1,211.39	86.29	58.30	46.32	0.00
令和2年度決算値	1.14	113.66	115.92	116.97	1,271.30	87.74	57.18	46.32	0.00
令和3年度決算値	0.98	111.72	113.99	114.48	1,729.20	89.81	58.59	46.32	0.05
全国平均(令和2年度決算値)	—	102.33	110.77	111.13	284.45	77.92	57.50	30.30	0.32
説明	<p>大規模な設備更新がR2年度に終了し、減価償却費が増加したこと等により、事業の収益性を示す経営資本営業利益率、営業収支比率、料金回収率、経常収支比率の4指標は悪化したが、給水費用は料金収入によって賄えていることに加え、営業利益・経常利益とも確保できていることから経営状況は健全であるといえる。</p> <p>また、経営の安全性を示す流動比率、自己資本構成比率は、全国平均を上回っており、経営基盤は安定しているといえる。</p> <p>一方、有形固定資産減価償却率では、償却資産の減価償却が約6割まで進んでいるが、日頃の保守点検によって各資産の劣化状況を把握し、更新計画に反映させながら順次更新に取り組んでおり、特に問題はない。また、管路経年化率に対して管路更新率が低いですが、これについても、管路の劣化調査の結果や(公社)日本水道協会による研究結果等を基に標準使用年数(60年)を設定して更新することとしているため、特に問題はない。</p>								

※ 営業収支比率: 単年度営業収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 料金回収率: 事業に必要な費用を給水収益で賄えている状況を示す100%以上が必要

※ 経常収支比率: 単年度収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 流動比率: 短期的に支払うべき債務を支払える現金等がある状況を示す100%以上が必要

水道事業 目標の達成状況

1 財務面に係る評価

目標の達成状況

	【目標】 毎期、経常利益を確保し、健全な運営を確保します。
決算値	244百万円
評価	A
評価に係る説明	目標どおり経常利益を確保したため、A評価とした。

2 事業面に係る評価

(1) 目標の達成状況

	計画業務量(年間供給水量)	設備の故障等による 計画外給水停止件数	
目標値	R3年度 21,972千m ³	R3年度 0件	
実績値	R3年度 22,123千m ³	R3年度 0件	
評価	A	A	
評価に係る説明	目標を上回る年間供給水量を達成したため、A評価とした。	目標どおり、計画外給水停止を発生させなかったため、A評価とした。	

(2) 取組実績等

経営方針	令和3(2021)年度の実績	令和4(2022)年度の実績予定
ハード・ソフト両面の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○設備更新計画等に基づく設備の更新 <ul style="list-style-type: none"> ▶ろ過池原水弁更新工事(北那須) ▶急速攪拌機更新工事(鬼怒) ▶1系排水処理池汚泥掻寄機更新工事(R3~R4、鬼怒) ▶無停電電源設備等更新工事(R2~R3、北那須) ▶No.1排泥池汚泥掻寄機更新工事(R2~R3、北那須) ▶貯蔵施設等資材倉庫設置工事(鬼怒) ○耐震化の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶管路更新等調査検討業務委託(鬼怒) ▶管路施設耐震化等検討会の開催(7月、2月) <ul style="list-style-type: none"> ・管路施設耐震化のスケジュール案及び管路更新等調査検討業務委託(鬼怒)の中間報告 ○業務継続体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶時差出勤やテレワーク、Web会議の推進 ○実践的な防災訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶災害対応訓練(地震)の実施(北那須:4、6月、鬼怒:6月) ▶受水市町等との共同防災訓練(北那須:12月、鬼怒:11月) ○応急復旧体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶衛星携帯電話の導入(北那須、鬼怒) ▶災害用給水車の更新(北那須、鬼怒) ▶水道災害相互応援物資リストの提供(日本水道協会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○設備更新計画等に基づく設備の更新 <ul style="list-style-type: none"> ▶1系排水処理池汚泥掻寄機更新工事(R3~R4、鬼怒) ▶ろ過池原水弁更新工事(北那須) ▶薬品沈澱池(1系排泥)空気源作動弁更新工事(北那須) ▶2-1系薬品沈澱池フロキュレータ更新工事(北那須) ▶取水場油分検出装置更新工事(鬼怒) ▶点検の強化のため、ドローンを導入(北那須) ○耐震化の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶管路施設耐震化等検討会の開催 ○業務継続体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶時差出勤やテレワーク、Web会議の推進 ○実践的な防災訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶災害対応訓練 ▶受水市町等との共同防災訓練 ▶水道事業等新型インフルエンザ対策訓練への参加 ○応急復旧体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶水道災害相互応援物資リストの情報共有

経営方針	令和3(2021)年度の実績	令和4(2022)年度の実績予定
水質管理の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○水安全計画(※)によるリスク対応の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶水安全計画に基づき、適切に水質管理がされていたかの確認等を行う検証作業を実施(北那須:6月、鬼怒:5月) ○水質検査の精度管理の向上 <ul style="list-style-type: none"> ▶水質検査計画の作成・HP公表(3月) ▶水質検査結果のHP公表(毎月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○水安全計画の見直しによるリスク対応の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶水安全計画に基づき、適切に水質管理がされていたかの確認等を行う検証作業を実施 ▶水質管理の向上を図るため水安全計画レビュー作業部会を開催し、水安全計画の見直しを実施 ○水質検査の精度管理の向上 <ul style="list-style-type: none"> ▶水質検査計画の作成・HP公表 ▶水質検査結果のHP公表(毎月)
経費削減や適切な料金設定等による財務基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な料金設定の実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶鬼怒水道用水供給事業(H30～R4)の料金見直しの結果、現行料金を据置き ○供給水量の維持・拡大に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ▶受水市町における水道施設等の最適な利活用に係る協議・検討の実施(6月、12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な料金設定の実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶北那須水道用水供給事業(R元～R5)の料金見直し作業に着手 ○供給水量の維持・拡大に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ▶受水市町における水道施設等の最適な利活用に係る協議・検討

※ 水道水源から送水に至る全ての段階において危害評価と危害管理を行い、安全で安心な水の供給を確実にする水道システムを構築する手法

経営方針	令和3(2021)年度の実績	令和4(2022)年度の実績予定
組織力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の技術力向上や業務に必要な資格取得の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶日本水道協会技術継承研修等の研修会への参加(4回、内Web2回) ▶職員の資格取得支援(電気主任技術者2名、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者1名、危険物取扱者1名) ○デジタル技術の活用とOJTによる技術継承の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶防災訓練時、管路施設GISを活用 ▶OJTによる技術継承 ○業務に必要な人材確保 <ul style="list-style-type: none"> ▶水道事業における業務計画の着実な推進に向け、当該計画の業務量に応じた電気職・機械職を確保するため、大卒程度のほか、令和2(2020)年度に再開した高卒程度の採用を継続 ▶必要となる人員が確実に確保できるよう、次の取組を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・工業系高校訪問による水道事業/工業用水道事業の魅力等のPR (高校訪問 6月8校、1月5校、3月1校) ・技術職現場見学会の実施(9/1 Web実施) ・電気職PR動画を作成しYouTubeでも公開 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の技術力向上や業務に必要な資格取得の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶局内水道技術者研修会の開催 ▶日本水道協会技術継承研修等の研修会への参加 ▶職員の資格取得支援 ○デジタル技術の活用とOJTによる技術継承の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶管路施設GISを活用した情報の共有 ▶OJTによる技術継承 ○業務に必要な人材確保 <ul style="list-style-type: none"> ▶電気職・機械職を確実に確保できるよう、大卒程度及び高卒程度の採用に加え、R5(2023)年度から社会人を対象とした採用等の実施に向けた協議の推進 ▶採用の周知を図るため、以下の取組を継続 <ul style="list-style-type: none"> ・大学や工業系高校訪問による水道事業/工業用水道事業の魅力等のPR ・技術職現場見学会の実施 ・工業系高等学校のインターンシップ受入れ ・電気職PR動画のYouTube公開
長期的展望からの経営改革	<ul style="list-style-type: none"> ○民間活力の導入推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶水質検査等業務の民間委託化の検討 ○広域連携等の取組推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶水道事業広域連携等検討会及びブロック別意見交換会に参加(5月、7月、11月、12月、2月、3月) <ul style="list-style-type: none"> ・水道事業の現状及び将来見通し、施設の統廃合等について助言 	<ul style="list-style-type: none"> ○民間活力の導入推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶水質検査等業務委託(R4～R6、北那須、鬼怒) ○広域連携等の取組推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶水道事業広域連携等検討会及びブロック別意見交換会への参加

経営方針	令和3(2021)年度の実績	令和4(2022)年度の実績予定
<p>SDGs 達成への貢献</p>  <p>The image shows four SDG icons: Goal 6 (Clean Water and Sanitation), Goal 3 (Good Health and Well-being), Goal 7 (Affordable and Clean Energy), and Goal 13 (Climate Action).</p>	<p>○安全・安心な水道用水の安定供給の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶適正な施設の管理・運用による「人の健康と福祉」を確保するため、浄水場運転操作業務委託(R元～R3)を実施 ▶水質検査計画に基づく定期的な水質検査の実施 <p>○環境負荷低減(温室効果ガス削減等)に貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶温室効果ガス削減のため、浄水場における太陽光発電を実施(北那須 発電電力量:54,054 kWh) ▶廃棄物排出抑制と資源リサイクル推進のため、浄水発生土を資源として有効利用(北那須・鬼怒合計:760t) 	<p>○安全・安心な水道用水の安定供給の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶適正な施設の管理・運用による「人の健康と福祉」を確保するため、浄水場運転操作業務委託(R4～R6)を実施 ▶水質検査計画に基づく定期的な水質検査の実施 <p>○環境負荷低減(温室効果ガス削減等)に貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶温室効果ガス削減のため、浄水場における太陽光発電を実施(北那須) ▶再生可能エネルギーの導入のため、太陽光発電の増設・新設に向けた太陽光発電設備設計業務委託(北那須、鬼怒) ▶廃棄物排出抑制と資源リサイクル推進のため、浄水発生土を資源として有効利用

3 総合評価

自己評価等						
1 財務面に係る評価 目標の達成状況 ・目標どおり経常利益を確保した。		(2)事業の取組実績等 ・ろ過池原水弁更新工事を計画どおり実施した。 ・河川への油流出事故を想定した訓練や供給停止に伴う応急給水訓練を市町等と共同で実施した。 ・応急給水時に使用する給水車をタンク一体型へ更新した。 ・鬼怒水道用水供給事業の料金見直しの結果、現行料金を据え置くこととした。				評価
2 事業面に係る評価 (1)目標の達成状況 ・計画業務量は目標を上回り、計画外給水停止は目標どおり(0件)となった。						A
評価委員会の評価等						
<ul style="list-style-type: none"> ・財務面について、経常利益を確保し目標を達成できている。 ・事業面について、計画業務量及び計画外給水停止件数のどちらも目標を達成できている。 ・令和3年度の取組実績として、耐震化の推進をはじめとした強靱化が計画どおり進められているほか、給水車を更新することで応急復旧体制の強化が図られている。 						評価
						A
	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	
自己評価	A					
評価委員会の評価	A					

今後の取組課題・改善点等						
<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心な水道水の安定供給を図るため、引き続き、計画的な設備更新工事の実施や業務継続体制の強化等により、ハード・ソフト両面の強靱化に取り組む。 ・適切な料金設定等による経営基盤の強化や、デジタル技術等を活用した業務効率化などによる組織力強化に取り組む。 ・持続可能な社会の実現に向けて、水道事業を通じたSDGs達成に貢献する。 						

○ 収支の状況

(1) 収益的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	料 金 収 入	計 画 額		1,815	1,812	1,806	1,801	1,801
		当 初 予 算 額		1,815				
		決 算 額	1,826	1,828				
	そ の 他 収 入	計 画 額		51	58	57	52	52
		当 初 予 算 額		51				
		決 算 額	165	100				
支 出	人 件 費	計 画 額		248	243	239	237	233
		当 初 予 算 額		248				
		決 算 額	263	257				
	減 価 償 却 費	計 画 額		699	674	687	698	715
		当 初 予 算 額		699				
		決 算 額	667	684				
	修 繕 費	計 画 額		186	229	220	237	200
		当 初 予 算 額		186				
		決 算 額	191	126				
	そ の 他 支 出	計 画 額		666	702	643	627	645
		当 初 予 算 額		666				
		決 算 額	824	617				
経 常 損 益	計 画 額		67	22	74	54	60	
	当 初 予 算 額		67					
	決 算 額	46	244					
剰 余 金 残 高			1,466	1,952				

・平成28年度からの積み上げによる(剰余金の処分は考慮しない)。

(2) 資本的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	借 入 金	計 画 額		0	0	0	0	0
		当 初 予 算 額		0				
		決 算 額	0	0				
	そ の 他 収 入	計 画 額		1	0	0	0	0
		当 初 予 算 額		1				
		決 算 額	1	0				
支 出	建 設 改 良 費	計 画 額		468	399	1,030	384	878
		当 初 予 算 額		468				
		決 算 額	871	402				
	借 入 金 償 還 金	計 画 額		118	106	82	58	48
		当 初 予 算 額		118				
		決 算 額	126	116				
	そ の 他 支 出	計 画 額		8	0	0	0	0
		当 初 予 算 額		8				
		決 算 額	8	0				
差 引	計 画 額		▲ 593	▲ 505	▲ 1,112	▲ 442	▲ 926	
	当 初 予 算 額		▲ 593					
	決 算 額	▲ 1,004	▲ 518					
借 入 金 残 高			480	364				

○ 経営指標による経営状況

(単位:%)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
経営資本営業利益率	決算値	1.57	0.98				
営業収支比率	決算値	119.26	111.72				
料金回収率	決算値	120.79	113.99				
経常収支比率	決算値	121.64	114.48				
流動比率	決算値	1,716.86	1,729.20				
自己資本構成比率	決算値	84.38	89.81				
有形固定資産減価償却率	決算値	58.92	58.59				
管路経年化率	決算値	32.87	46.32				
管路更新率	決算値	0.00	0.05				

○ 財務面に係る目標の達成状況

(単位:百万円)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
毎期、経常利益を確保	決算値		244				
	評価		A				

○ 事業面に係る目標の達成状況

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
計画業務量 (年間供給水量)	目標値		21,972千m ³	21,938千m ³	21,860千m ³	21,800千m ³	21,800千m ³
	実績値	22,389千m ³	22,123千m ³				
	評価		A				
設備の故障等による 計画外給水停止件数	目標値		0件	0件	0件	0件	0件
	実績値	0件	0件				
	評価		A				

工業用水道事業

令和3(2021)年度決算と経営戦略収支計画比較

会計名 工業用水道事業

(単位:百万円、収益的収支は税抜表示、資本的収支は税込表示)

(1) 収益的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	料金収入	492	492	512	20	
	その他収入	366	365	279	▲ 87	・その他収入は、 除却資産が計画より減少し、長期前受金戻入が減少したことにより減
	計	857	857	791	▲ 66	
支 出	人件費	65	65	73	8	
	減価償却費	222	222	219	▲ 3	
	修繕費	40	40	23	▲ 17	
	その他支出	504	502	409	▲ 95	・その他支出は、 資産減耗費が計画より減少したこと等により減
	計	830	829	724	▲ 106	
経 常 損 益		28	28	67	39	

剰余金残高	538	/	696	158	
-------	-----	---	-----	-----	--

・平成28年度からの積み上げによる(剰余金の処分は考慮しない)。

(2) 資本的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	借入金	0	0	0	0	
	その他収入	22	22	18	▲ 4	
	計	22	22	18	▲ 4	
支 出	建設改良費	343	343	124	▲ 219	・建設改良費は、 工事の進捗に合わせて翌年度に繰り越したため減
	借入金償還金	78	77	77	▲ 1	
	その他支出	4	4	0	▲ 4	
	計	424	424	201	▲ 223	
差 引		▲ 403	▲ 402	▲ 183	220	

借入金残高	2,067	/	2,069	2	
-------	-------	---	-------	---	--

経営指標による経営状況

	収益性				安全性		老朽化の状況		
	経営資本 営業利益率	営業収支比率	料金回収率	経常収支比率	流動比率	自己資本 構成比率	有形固定資産 減価償却率	管路経年化率	管路更新率
	・経営資本でどれだけの営業利益を上げたかで、高いほど良好	・営業活動の比率で、高いほど良好	・給水費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す指標	・経常的な企業活動の効率性で、高いほど良好	・短期的な支払能力で、高いほど経営基盤は安定	・総資本に対する自己資本の割合で、高いほど経営基盤は安定	・償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標	・法定耐用年数(40年)を超えた管路延長の割合を表す指標	・当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標
	(単位:%)								
平成29年度決算値	▲ 6.36	59.33	106.54	112.23	939.40	85.98	60.19	0.00	0.00
平成30年度決算値	0.10	101.17	108.43	122.47	1,076.05	86.52	62.42	0.00	0.00
令和元年度決算値	0.24	102.72	110.24	122.18	823.41	86.63	66.25	0.00	0.00
令和2年度決算値	▲ 1.97	81.98	102.03	114.82	1,288.01	87.35	65.44	0.00	0.00
令和3年度決算値	▲ 3.45	72.43	93.06	109.26	1,363.28	87.60	66.55	0.00	0.00
全国平均(令和2年度決算値)	-	107.50	103.06	115.38	638.35	73.10	57.63	52.35	0.24
説明	<p>設備更新に伴う資産減耗費が増加したこと等により、事業の収益性を示す経営資本営業利益率、営業収支比率、料金回収率、経常収支比率の4指標は悪化したが、経常利益は確保できていることから経営状況は概ね健全であるといえる。</p> <p>また、経営の安全性を示す自己資本構成比率、流動比率は、全国平均を上回っており、経営基盤は安定しているといえる。</p> <p>一方、有形固定資産減価償却率では、償却資産の減価償却が6割を超えて進んでいるが、日頃の保守点検によって各資産の劣化状況を把握し、更新計画に反映させながら順次更新に取り組んでおり、特に問題はない。</p>								

※ 営業収支比率:単年度営業収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 料金回収率:事業に必要な費用を給水収益で賄えている状況を示す100%以上が必要

※ 経常収支比率:単年度収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 流動比率:短期的に支払うべき債務を支払える現金等がある状況を示す100%以上が必要

工業用水道事業 目標の達成状況

1 財務面に係る評価

目標の達成状況

	【目標】 毎期、経常利益を確保し、健全な運営を確保します。
決算値	67百万円
評価	A
評価に係る説明	目標どおり経常利益を確保したため、A評価とした。

2 事業面に係る評価

(1) 目標の達成状況

	計画業務量 (年間基本供給水量)	設備の故障等による 計画外給水停止件数	需要拡大に向けた PR活動件数	
目標値	R3年度 8,930千m ³	R3年度 0件	R3年度 100件	
実績値	R3年度 8,948千m ³	R3年度 0件	R3年度 115件	
評価	A	A	A	
評価に係る説明	目標を上回る年間基本供給水量を達成したため、A評価とした。	目標どおり、計画外給水停止を発生させなかったため、A評価とした。	目標を上回るPR活動を行ったため、A評価とした。	

(2) 取組実績等

経営方針	令和3(2022)年度の実績	令和4(2022)年度の実績予定
ハード・ソフト両面の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○設備更新計画等に基づく設備の更新 <ul style="list-style-type: none"> ▶1系排水処理池汚泥掻寄機更新工事(R3～R4) ▶急速攪拌機更新工事 ▶貯蔵施設等資材倉庫設置工事 ○耐震化の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶管路施設耐震化等検討会の開催(7月、2月) <ul style="list-style-type: none"> ・管路施設耐震化のスケジュール案及び管路更新等調査検討業務委託(鬼怒)の中間報告 ○業務継続計画の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶時差出勤やテレワーク、Web会議の実施 ○実践的な防災訓練 <ul style="list-style-type: none"> ▶災害対応訓練(地震)の実施(6月) ○応急復旧体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶衛星携帯電話の導入 ▶工業用水道災害相互応援備蓄資機材表等の提供(埼玉県) 	<ul style="list-style-type: none"> ○設備更新計画等に基づく設備の更新 <ul style="list-style-type: none"> ▶1系排水処理池汚泥掻寄機更新工事(R3～R4) ▶取水場油分検出装置更新工事 ○耐震化の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶管路施設耐震化等検討会の開催 ○業務継続計画の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶時差出勤やテレワーク、Web会議の推進 ○実践的な防災訓練 <ul style="list-style-type: none"> ▶災害対応訓練 ▶水道事業等新型インフルエンザ対策訓練 ○応急復旧体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶工業用水道災害相互応援備蓄資機材表等の情報共有
とちぎのものづくりを支える産業基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○給水地域の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ▶芳賀第2工業団地配水管布設工事その1 ▶芳賀第2工業団地配水管布設工事その2(R3～R4) 	<ul style="list-style-type: none"> ○給水地域の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ▶芳賀第2工業団地配水管布設工事その2(R3～R4)

経営方針	令和3(2022)年度の実績	令和4(2022)年度の実績予定
経費削減や需要拡大による財務基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ターゲットを絞った営業活動 <ul style="list-style-type: none"> ▶給水区域内の新規企業等への営業活動 ▶工業用水需要拡大に向けた検討班を開催(9月、1月) <ul style="list-style-type: none"> ・受水企業の定着及び新規企業の開拓に向けた取組を実施 ○経営基盤の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶鬼怒工業用水道事業(H29～R3)の料金見直しの結果、現行料金を据置き 	<ul style="list-style-type: none"> ○ターゲットを絞った営業活動 <ul style="list-style-type: none"> ▶給水区域内の新規企業への営業活動 ▶工業用水需要拡大に向けた検討班を開催
組織力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の技術力向上や業務に必要な資格取得の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶日本工業用水道協会技術継承研修等の研修会への参加(感染症対策のため派遣中止) ▶職員の資格取得支援(危険物取扱者2名) ○デジタル技術の活用とOJTによる技術継承の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶OJTによる技術継承 ○業務に必要な人材確保 <ul style="list-style-type: none"> ▶工業用水道事業における業務計画の着実な推進に向け、当該計画の業務量に応じた電気職・機械職を確保するため、大卒程度のほか、令和2(2020)年度に再開した高卒程度の採用を継続 ▶必要となる人員が確実に確保できるよう、次の取組を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・工業系高校訪問による工業用水道事業/水道事業の魅力等のPR (高校訪問 6月8校、1月5校、3月1校) ・技術職現場見学会の実施(9/1 Web実施) ・電気職PR動画を作成しYouTubeでも公開 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の技術力向上や業務に必要な資格取得の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶日本工業用水道協会技術継承研修等の研修会への参加 ▶職員の資格取得支援 ○デジタル技術の活用とOJTによる技術継承の推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶OJTによる技術継承 ○業務に必要な人材確保 <ul style="list-style-type: none"> ▶電気職・機械職を確実に確保できるよう、大卒程度及び高卒程度の採用に加え、R5(2023)年度から社会人を対象とした採用等の実施に向けた協議の推進 ▶採用の周知を図るため、以下の取組を継続 <ul style="list-style-type: none"> ・大学や工業系高校訪問による工業用水道事業/水道事業の魅力等のPR ・技術職現場見学会の実施 ・工業系高等学校のインターンシップ受入れ ・電気職PR動画のYouTube公開

経営方針	令和3(2022)年度の実績	令和4(2022)年度の実績予定
<p>SDGs 達成への貢献</p>  <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>○環境負荷低減(温室効果ガス等)に貢献</p> <ul style="list-style-type: none">▶廃棄物排出抑制と資源リサイクル推進のため、浄水発生土を資源として有効利用(上・工水合計:467 t)	<p>○環境負荷低減(温室効果ガス等)に貢献</p> <ul style="list-style-type: none">▶再生可能エネルギーの導入のため、太陽光発電設備の新設に向けた設計業務委託▶廃棄物排出抑制と資源リサイクル推進のため、浄水発生土を資源として有効利用

3 総合評価

自己評価等						
1 財務面に係る評価 目標の達成状況 ・目標どおり経常利益を確保した。		(2)事業の取組実績等 ・1系排水処理池汚泥掻寄機更新工事は、材料の一部にステンレスなどを採用し発注。長寿命化と維持管理費用の縮減を図った。 ・地震発生時における防災訓練を実施した。 ・芳賀第2工業団地への配水管布設工事を推進した。 ・鬼怒工業用水道事業の料金見直しの結果、現行料金を据え置くこととした。				評価
2 事業面に係る評価 (1)目標の達成状況 ・計画業務量及びPR件数は目標を上回り、計画外給水停止は目標どおり(0件)となった。						A
評価委員会の評価等						
<ul style="list-style-type: none"> ・財務面について、経常利益を確保し目標を達成できている。 ・事業面について、計画業務量、計画外給水停止件数及びPR活動件数の全ての目標を達成できている。 ・令和3年度の取組実績として、設備更新は長寿命化を図りつつ計画どおり進められているほか、新規配水管布設工事を推進することで給水地域の拡大に向けて取り組まれている。 						評価
						A
	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	
自己評価	A					
評価委員会の評価	A					

今後の取組課題・改善点等						
<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心な工業用水の安定供給を図るため、引き続き、計画的な設備更新工事の実施や業務継続体制の強化等により、ハード・ソフト両面の強靱化に取り組む。 ・受水企業の定着促進と併せ、ターゲットを絞った営業活動や関係機関との連携等により新規需要の開拓に取り組む。 ・持続可能な社会の実現に向けて、工業用水道事業を通じたSDGs達成に貢献する。 						

○ 収支の状況

(1) 収益的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	料 金 収 入	計 画 額		492	491	491	491	499
		当 初 予 算 額		492				
		決 算 額	508	512				
	そ の 他 収 入	計 画 額		366	95	94	94	89
		当 初 予 算 額		365				
		決 算 額	288	279				
支 出	人 件 費	計 画 額		65	56	56	56	52
		当 初 予 算 額		65				
		決 算 額	35	73				
	減 価 償 却 費	計 画 額		222	229	230	222	234
		当 初 予 算 額		222				
		決 算 額	211	219				
	修 繕 費	計 画 額		40	27	11	46	21
		当 初 予 算 額		40				
		決 算 額	48	23				
	そ の 他 支 出	計 画 額		504	262	274	237	267
		当 初 予 算 額		502				
		決 算 額	400	409				
経 常 損 益	計 画 額		28	12	13	24	15	
	当 初 予 算 額		28					
	決 算 額	102	67					
剰 余 金 残 高			629	696				

・平成28年度からの積み上げによる(剰余金の処分は考慮しない)。

(2) 資本的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	借 入 金	計 画 額		0	0	0	0	0
		当 初 予 算 額		0				
		決 算 額	0	0				
	そ の 他 収 入	計 画 額		22	0	0	0	0
		当 初 予 算 額		22				
		決 算 額	17	18				
支 出	建 設 改 良 費	計 画 額		343	47	681	92	43
		当 初 予 算 額		343				
		決 算 額	67	124				
	借 入 金 償 還 金	計 画 額		78	71	70	70	70
		当 初 予 算 額		77				
		決 算 額	79	77				
	そ の 他 支 出	計 画 額		4	0	0	0	0
		当 初 予 算 額		4				
		決 算 額	0	0				
差 引	計 画 額		▲ 403	▲ 118	▲ 751	▲ 162	▲ 114	
	当 初 予 算 額		▲ 402					
	決 算 額	▲ 129	▲ 183					
借 入 金 残 高			2,146	2,069				

○ 経営指標による経営状況

(単位:%)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
経営資本営業利益率	決算値	▲ 1.97	▲ 3.45				
営業収支比率	決算値	81.98	72.43				
料金回収率	決算値	102.03	93.06				
経常収支比率	決算値	114.82	109.26				
流動比率	決算値	1,288.01	1,363.28				
自己資本構成比率	決算値	87.35	87.60				
有形固定資産減価償却率	決算値	65.44	66.55				
管路経年化率	決算値	0.00	0.00				
管路更新率	決算値	0.00	0.00				

○ 財務面に係る目標の達成状況

(単位:百万円)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
毎期、経常利益を確保	決算値		67				
	評価		A				

○ 事業面に係る目標の達成状況

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
計画業務量 (年間基本供給水量)	目標値		8,930千m ³	8,930千m ³	8,930千m ³	8,930千m ³	9,095千m ³
	実績値	8,940千m ³	8,948千m ³				
	評価		A				
設備の故障等による 計画外給水停止件数	目標値		0件	0件	0件	0件	0件
	実績値	0件	0件				
	評価		A				
需要拡大に向けた PR活動件数	目標値		100件	100件	100件	100件	100件
	実績値		115件				
	評価		A				

用地造成事業

令和3(2021)年度決算と経営戦略収支計画比較

会計名 用地造成事業

(単位:百万円、収益的収支は税抜表示、資本的収支は税込表示)

(1) 収益的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	分譲収益	736	736	48	▲ 688	・分譲収益は、商 談が成約に至らず 減
	その他収入	18	20	26	8	
	計	754	756	74	▲ 680	
支 出	人件費	61	61	68	7	・分譲原価は、商 談が成約に至らず 減
	分譲原価	607	607	52	▲ 555	
	その他支出	110	112	78	▲ 32	
	計	778	780	198	▲ 580	
経 常 損 益		▲ 24	▲ 24	▲ 124	▲ 100	

(2) 資本的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	借入金(※1)	1,553	1,553	1,104	▲ 449	・借入金は、工事 の進捗状況に合わ せて調整したため 減
	その他収入	218	218	128	▲ 90	
	(うち分譲前受金)	-	-	(0)		
	計 (※2)	1,771	1,771	1,232	▲ 539	
支 出	建設改良費	1,817	1,817	1,415	▲ 402	・建設改良費は、 工事の進捗状況に 合わせて調整した ため減 ・借入金償還金 は、分譲収益に合 わせて繰上償還を 行わなかったため 減
	借入金償還金 (※1)	688	688	0	▲ 688	
	その他支出	5	5	0	▲ 5	
	計	2,510	2,510	1,415	▲ 1,095	
差 引		▲ 739	▲ 739	▲ 183	556	

剰余金残高	47	/	▲ 28	▲ 75	
-------	----	---	------	------	--

・平成28年度からの積み上げによる(剰余金の処分は考慮しない)。

借入金残高	7,494	/	6,763	▲ 731	
-------	-------	---	-------	-------	--

※1 借入金及び借入金償還金には借換え分を含まず

※2 資本的収支に分譲前受金は含まず

経営指標による経営状況

	収益性			安全性						
	経営資本 営業利益率 ・経営資本でどれ だけの営業利益 を上げたかで、 高いほど良好	営業収支比率 ・営業活動の能 率で、高いほど 良好	経常収支比率 ・経常的な企業 活動の効率性 で、高いほど良 好	流動比率 ・短期的な支払 能力で、高いほ ど経営基盤は安 定	自己資本 構成比率 ・総資本に対する 自己資本の割合 で、高いほど経 営基盤は安定 (単位:%)					
平成29年度決算値	4.74	112.99	112.39	105.52	25.3					
平成30年度決算値	1.22	105.31	103.78	163.80	32.51					
令和元年度決算値	▲ 14.74	60.78	108.05	172.16	30.26					
令和2年度決算値	▲ 1.46	32.76	38.95	111.82	27.31					
令和3年度決算値	▲ 1.54	48.10	37.41	150.75	25.27					
説明	<p>分譲収益が過年度の割賦分譲分のみとなり十分に確保できなかったため、事業の収益性を示す経営資本営業利益率、営業収支比率、経常収支比率の3指標は低い値となっており、早期に分譲収益を確保する必要がある。</p> <p>また、経営の安全性を示す自己資本構成比率は造成工事の企業債借入のため悪化したが、流動比率は100%を超えており、短期的な支払能力を維持しており、経営基盤は安定しているといえる。</p>									

※ 営業収支比率: 単年度営業収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 経常収支比率: 単年度収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 流動比率: 短期的に支払うべき債務を支払える現金等がある状況を示す100%以上が必要

用地造成事業 目標の達成状況

1 財務面に係る評価

目標の達成状況

	【目標】 財政基盤強化のため、5か年で合計1億円の経常利益を確保します。
決算累計値	▲124百万円
評価	C
評価に係る説明	令和3年度は、引合い企業との商談が成約に至らず、当初計画より経常損失が大きくなったため、C評価とした。 分譲案内を前倒しするなど、分譲可能な産業用地の確保に努めており、経営戦略期間の5か年中に、1億円の経常利益を確保できる見込みである。

2 事業面に係る評価

(1) 目標の達成状況

	分譲面積		案内可能面積		企業誘致活動		
					HPアクセス件数(※1)	企業等訪問件数(※2)	メールマガジン送信件数
目標値	5か年で合計34ha分譲		毎年度、8ha以上確保		R3年度	R3年度	R3年度
	計画累計値	4.1ha	R3年度計画値	14.3ha	9,000件	80件	500件
実績(累計)値	累計 0.0ha		R3年度 21.6ha		R3年度 8,431件	R3年度 80件	R3年度 1,029件
評価	C		A		B	A	A
評価に係る説明	引合い企業との商談が成約に至らず計画値を下回ったため、C評価とした。		芳賀第2工業団地第2期分譲案内の前倒しにより目標値を上回ったため、A評価とした。		目標値を若干下回ったためB評価とした。	Web会議システムによる商談実施等、新たな日常に対応したPR活動の強化により目標値を達成したため、A評価とした。	問合せ企業に対するメルマガ送信の取組強化等により目標値を上回ったため、A評価とした。

※1 各団地の案内ページ及び団地案内動画サイトのアクセス件数

※2 企業、ゼネコン、金融機関及び不動産取扱い業者への訪問の他、リモート等による誘致活動を含む

(2) 取組実績等

経営方針	令和3(2021)年度の実績	令和4(2022)年度の実績
とちぎの産業躍進を支える立地環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ニーズ把握のための情報収集等 <ul style="list-style-type: none"> ▶企業アンケート業務委託(全国14,000社) ○市町の産業団地に係る構想段階からの助言・意見交換 ○魅力ある産業団地の整備 <ul style="list-style-type: none"> ▶造成工事(芳賀第2工業団地) ▶用地取得(鹿沼インター産業団地) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ニーズ把握のための情報収集等 <ul style="list-style-type: none"> ▶企業アンケート業務委託(全国14,000社) ○市町の産業団地に係る構想段階からの助言・意見交換 ○魅力ある産業団地の整備 <ul style="list-style-type: none"> ▶分譲(芳賀第2工業団地) ▶予約分譲(鹿沼インター産業団地) ▶造成工事(芳賀第2工業団地、鹿沼インター産業団地)
新たな日常に対応した企業誘致活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○戦略3産業(※1)、未来3技術(※2)、食品関連の企業誘致を強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶宇都宮ゆいの杜産業用地(分譲要綱改正により対象業種を明確化) ○立地環境の優位性をPR <ul style="list-style-type: none"> ▶各種メディア(新聞広告、インターネット、メールマガジン等)やWeb会議システム等を活用したPR活動 ○デジタル技術を活用した企業誘致活動 <ul style="list-style-type: none"> ▶名刺管理サービスの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○戦略3産業、未来3技術、食品関連の企業誘致を推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶宇都宮ゆいの杜産業用地 ○立地環境の優位性をPR <ul style="list-style-type: none"> ▶各種メディア(新聞広告、インターネット、メールマガジン等)やWeb会議システム等を活用したPR活動 ○デジタル技術を活用した企業誘致活動 <ul style="list-style-type: none"> ▶名刺管理サービスの活用(データベース化、メルマガ配信等)
利益確保による経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○地元市町との細目協定(役割分担)に基づく事業執行 <ul style="list-style-type: none"> ▶芳賀町(芳賀第2工業団地) ▶鹿沼市(鹿沼インター産業団地) ○建設発生土の工事間利用の推進による経費削減 <ul style="list-style-type: none"> ▶芳賀第2工業団地 ○芳賀第2工業団地第2期予約分譲案内開始(7.5ha) 	<ul style="list-style-type: none"> ○地元市町との細目協定(役割分担)に基づく事業執行 <ul style="list-style-type: none"> ▶芳賀町(芳賀第2工業団地) ▶鹿沼市(鹿沼インター産業団地) ○建設発生土の工事間利用の推進による経費削減 <ul style="list-style-type: none"> ▶芳賀第2工業団地、鹿沼インター産業団地 ○芳賀第2工業団地分譲実施(17.7ha) ○鹿沼インター産業団地第1期予約分譲案内開始

※1 栃木県が重点的に支援する自動車、航空宇宙、医療福祉機器産業のこと

※2 今後のものづくり企業の成長を加速させるAI・IoT・ロボット、光学、環境・新素材の3技術のこと

経営方針	令和3(2021)年度の実績	令和4(2022)年度の実績予定
<p>SDGs 達成への貢献</p>  <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう 8 働きがいも経済成長も 15 陸の豊かさも守ろう 4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>○企業誘致推進による産業の成長と雇用創出への貢献 ▶各団地のPR活動</p> <p>○環境学習活動や森林保全活動の支援 ▶みぶ羽生田産業団地の代替林(とうぶの森とちぎ中央)における活動を県Twitterで紹介</p>	<p>○企業誘致推進による産業の成長と雇用創出への貢献 ▶各団地のPR活動</p> <p>○環境学習活動や森林保全活動の支援 ▶みぶ羽生田産業団地の代替林(とうぶの森とちぎ中央)の活動支援</p>

3 総合評価

自己評価等						
1 財務面に係る評価 目標の達成状況 ・引合い企業との商談が成約に至らず、当初計画より経常損失が大きくなった。		2 事業面に係る評価 (1)目標の達成状況 ・R3年度単年の分譲面積は0haとなったが、R4～6年度に分譲予定だった芳賀第2工業団地のR4年度分譲への前倒しに努め、経営戦略期間全体での分譲目標は達成する見込みである。 (2)事業の取組実績等 ・産業団地の早期整備と企業誘致活動を着実に実施した。 ・関係機関と連携し、経費削減に努めた。				評価
						B
評価委員会の評価等						
<ul style="list-style-type: none"> ・財務面について、単年度では当初計画を下回ったが、芳賀第2工業団地の令和4年度分譲への前倒しに努めるなど、経営戦略期間全体では目標を達成する見込みであることは評価できる。 ・事業面について、分譲面積は目標を達成できなかったが、案内可能面積は目標を上回っており、企業誘致活動も概ね目標を達成できている。 ・令和3年度の取組実績として、産業団地の早期整備やWeb会議方式による企業誘致活動を実施するなど、産業用地の早期分譲に取り組んでいる。 						評価
						B
	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	
自己評価	B					
評価委員会の評価	B					

今後の取組課題・改善点等

- ・デジタル技術なども活用して誘致活動を積極的に展開し、分譲中の団地の早期分譲を図る。
- ・鹿沼インター産業団地については、引き続き関係機関との連携を強化し、早期造成・早期分譲による収益確保を図る。
- ・企業ニーズの的確な把握に努めるとともに、市町の新規産業団地構想に積極的に関与し、経営戦略に掲げた目標達成に向け、魅力ある産業団地の整備に取り組む。
- ・持続可能な社会の実現に向けて、用地造成事業を通じたSDGs達成に貢献する。

○ 収支の状況

(1) 収益的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	分 譲 収 益	計 画 額		736	1,896	1,154	1,453	1,185
		当 初 予 算 額		736				
		決 算 額	16	48				
	そ の 他 収 入	計 画 額		18	20	20	420	20
		当 初 予 算 額		20				
		決 算 額	43	26				
支 出	人 件 費	計 画 額		61	54	54	54	54
		当 初 予 算 額		61				
		決 算 額	57	68				
	分 譲 原 価	計 画 額		607	1,583	955	1,228	1,015
		当 初 予 算 額		607				
		決 算 額	17	52				
	そ の 他 支 出	計 画 額		110	171	123	543	125
		当 初 予 算 額		112				
		決 算 額	77	78				
経 常 損 益		計 画 額		▲ 24	108	42	48	11
		当 初 予 算 額		▲ 24				
		決 算 額	▲ 92	▲ 124				
剰 余 金 残 高			47	▲ 28				

・平成28年度からの積み上げによる(剰余金の処分は考慮しない)。

(2) 資本的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	借 入 金	計 画 額		1,553	808	1,025	860	1,551
		当 初 予 算 額		1,553				
		決 算 額	517	1,104				
	そ の 他 収 入	計 画 額		218	370	311	550	390
		当 初 予 算 額		218				
		決 算 額	556	128				
	(うち分譲前受金)	計 画 額		-	-	-	-	-
		当 初 予 算 額		-	-	-	-	-
		決 算 額	(371)	(0)				
支 出	建 設 改 良 費	計 画 額		1,817	1,271	1,907	1,561	1,806
		当 初 予 算 額		1,817				
		決 算 額	759	1,415				
	借 入 金 償 還 金	計 画 額		688	1,632	674	1,110	1,110
		当 初 予 算 額		688				
		決 算 額	100	0				
	そ の 他 支 出	計 画 額		5	0	0	0	0
		当 初 予 算 額		5				
		決 算 額	0	0				
差 引	計 画 額		▲ 739	▲ 1,725	▲ 1,245	▲ 1,261	▲ 975	
	当 初 予 算 額		▲ 739					
	決 算 額	▲ 157	▲ 183					

借 入 金 残 高	5,659	6,763				
-----------	-------	-------	--	--	--	--

・借入金及び借入金償還金には借換え分を含まず。

・資本的収支に分譲前受金は含まず。

○ 経営指標による経営状況

(単位:%)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
経営資本営業利益率	決算値	▲ 1.46	▲ 1.54				
営業収支比率	決算値	32.76	48.1				
経常収支比率	決算値	38.95	37.41				
流動比率	決算値	111.82	150.75				
自己資本構成比率	決算値	27.31	25.27				

○ 財務面に係る目標の達成状況

(単位:百万円)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
5か年で合計1億円	計画累計値		▲ 24	84	126	174	185
	決算累計値		▲ 124	(274)	(307)	(197)	(223)
	評価		C				

※ 括弧書きは現時点における見込値

○ 事業面に係る目標の達成状況

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
分譲面積 5か年で合計34ha分譲	計画累計値		4.1ha	14.3ha	20.5ha	28.4ha	34.8ha
	実績累計値	0.0ha	0.0ha				
	評価		C				
案内可能面積 毎年度、8ha以上確保	計画値		14.3ha	8.1ha	10.9ha	10.8ha	13.4ha
	実績値	14.3ha	21.6ha				
	評価		A				
企業誘致活動 (HPアクセス件数)	目標値		9,000件	8,500件	14,000件	8,500件	14,000件
	実績値	8,389件	8,431件				
	評価		B				
企業誘致活動 (企業等訪問件数)	目標値		80件	80件	130件	80件	130件
	実績値	63件	80件				
	評価		A				
企業誘致活動 (メールマガジン送信件数)	目標値		500件	500件	500件	500件	500件
	実績値	427件	1,029件				
	評価		A				

県民ゴルフ場事業

令和3(2021)年度決算と経営戦略収支計画比較

会計名 施設管理事業(県民ゴルフ場事業)

(単位:百万円、収益的収支は税抜表示、資本的収支は税込表示)

(1) 収益的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	料金収入	19	19	19	0	
	その他収入	3	3	2	▲ 1	
	計	22	22	21	▲ 1	
支 出	人件費	0	0	0	0	
	減価償却費	13	13	13	0	
	修繕費	3	3	0	▲ 3	
	その他支出	2	2	0	▲ 2	
	計	18	18	13	▲ 5	
経 常 損 益		4	4	8	4	

剰余金残高	▲ 1,140		▲ 1,134	6	
-------	---------	--	---------	---	--

・剰余金の処分は考慮しない。

(2) 資本的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	借入金	0	0	0	0	
	その他収入	5	5	3	▲ 2	
	計	5	5	3	▲ 2	
支 出	建設改良費	12	11	3	▲ 9	・建設改良費は、 散水設備制御盤 等改修工事が翌 年度まで工期延長 したため減
	借入金償還金	11	12	11	0	
	その他支出	1	0	0	▲ 1	
	計	24	23	14	▲ 10	
差 引		▲ 19	▲ 18	▲ 11	8	

借入金残高	255		255	0	
-------	-----	--	-----	---	--

経営指標による経営状況

	収益性			安全性		老朽化の状況			
	経営資本 営業利益率 ・経営資本でどれ だけの営業利益 を上げたかで、 高いほど良好	営業収支比率 ・営業活動の能 率で、高いほど 良好	経常収支比率 ・経常的な企業 活動の効率性 で、高いほど良 好	流動比率 ・短期的な支払 能力で、高いほ ど経営基盤は安 定	自己資本 構成比率 ・総資本に対する 自己資本の割合 で、高いほど経 営基盤は安定 (単位:%)	有形固定資産 減価償却率 ・償却対象資産 の減価償却がど の程度進んでい るかを表す指標			
平成29年度決算値	0.20	123.85	132.67	243.31	83.70	86.35			
平成30年度決算値	0.03	102.42	105.43	253.57	84.19	87.58			
令和元年度決算値	0.08	108.59	113.40	287.15	84.96	86.08			
令和2年度決算値	▲ 0.52	67.19	113.51	334.40	85.51	87.42			
令和3年度決算値	0.33	146.17	160.11	376.75	86.03	88.50			
説明	<p>クラブハウスの修繕工事が終了し、修繕費が減少したこと等により、事業の収益性を示す経営資本営業利益率、営業収支比率、経常収支比率の3指標は好転し、営業利益、経常利益ともに確保できていることから、経営状況は健全であるといえる。</p> <p>また、経営の安全性を示す流動比率、自己資本構成比率ともに高い値を維持できており、経営基盤は安定しているといえる。</p> <p>なお、有形固定資産減価償却率では償却資産の減価償却が8割を超えているものの、経営への影響に配慮しながら、R4年度以降、計画的に設備更新を進めていく。</p>								

※ 営業収支比率:単年度営業収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 経常収支比率:単年度収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 流動比率:短期的に支払うべき債務を支払える現金等がある状況を示す100%以上が必要

施設管理事業(県民ゴルフ場事業) 目標の達成状況

1 財務面に係る評価

目標の達成状況

	【目標】 安定的な運営を確保するため、毎期、経常利益を確保します。
決算値	8百万円
評価	A
評価に係る説明	目標どおり経常利益を確保したため、A評価とした。

2 事業面に係る評価

(1) 目標の達成状況

	利用者満足度(※)の維持・向上	利用者数の確保	
目 標 値	R3年度 4.2	R3年度 35,000人	
実 績 値	R3年度 4.2	R3年度 38,193人	
評価	A	A	
評価に係る説明	目標を達成したため、A評価とした。	目標を上回る利用者数を達成したため、A評価とした。	

※ 利用者満足度は、利用者アンケートによるゴルフ場のサービスに対する5段階評価

(2) 取組実績等

経営方針	令和3(2021)年度の実績	令和4(2022)年度の実績予定
多くの利用者に対する 気軽に安全・安心なゴルフ ライフの提供	<ul style="list-style-type: none"> ○シンプル＆リーズナブルをコンセプトとした業務の展開 <ul style="list-style-type: none"> ▶スループレープラン、ジュニア料金及びシニア&レディース料金の設定日あり ○リピーター、シニア層及び女性客増加の取組 <ul style="list-style-type: none"> ▶友の会月例会の開催(毎月第一日曜日) ▶水曜杯の開催(毎月第二水曜日) ▶シニア&レディース杯の開催(毎月) ▶とちまるゴルフカップの開催(毎月) ▶コース内カート乗り入れによる利便性向上 ○ジュニア教室等の積極的な誘致 <ul style="list-style-type: none"> ▶ラウンド体験ゴルフ教室【5/17:参加者13名】 ▶ジュニア育成委員会【6/26:参加者32名】 ▶ジュニアスクールの開催【8/19:参加者43名】 ○新型コロナウイルス感染拡大防止対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○シンプル＆リーズナブルをコンセプトとした業務の展開 <ul style="list-style-type: none"> ▶スループレープラン、ジュニア料金及びシニア&レディース料金の設定日あり ○リピーター、シニア層及び女性客増加の取組 <ul style="list-style-type: none"> ▶友の会月例会の開催(毎月第一日曜日) ▶水曜杯の開催(毎月第一、第二水曜日) ▶シニア&レディース杯の開催(毎月) ▶とちまるゴルフカップの開催(毎月) ▶コース内カート乗り入れによる利便性の向上 ○ジュニア教室等の積極的な誘致 ○30周年記念の各種コンペ等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ▶大ロングランコンペの開催(4/15~7/31) ▶大ロングランコンペ第2回(9月~12月予定) ▶とちテレゴルフカップの開催(4月、5月、8月) ▶とちまるゴルフクラブ30周年記念式典(8/27) ▶県有アニバーサリー施設とのコラボ企画の実施(県立美術館、博物館、とちぎ花センター) ▶県民の日イベント、国体イベントへのブース参加 ○新型コロナウイルス感染拡大防止対策の実施
計画的で効果的な 設備投資	<ul style="list-style-type: none"> ○散水設備制御盤更新工事 <ul style="list-style-type: none"> ▶コース管理用散水設備制御盤の更新(R4まで延長) ○クラブハウスリニューアル工事の詳細設計業務委託 <ul style="list-style-type: none"> ▶R4工事発注のための詳細設計業務委託 	<ul style="list-style-type: none"> ○散水設備制御盤更新工事 <ul style="list-style-type: none"> ▶コース管理用散水設備制御盤の更新(R3から延長) ○クラブハウスリニューアル工事の実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶男性ロッカー室の拡張 ▶男女ロッカーの大型化 ▶浴槽廃止とシャワーブース(脱衣スペース付)化 ▶化粧室のパウダールーム化 ▶換気設備の更新

経営方針	令和3(2021)年度の実績	令和4(2022)年度の実績予定
利益確保による経営基盤の強化	○利用者数維持による収入(指定管理者納付金)の確保 ▶大会の誘致(栃木県プロ選手権大会【プロの大会は過去初めての実施】、栃木県社会人アマチュア選手権大会、栃木県知事盃) ▶新聞広告、インターネット予約サイトを利用したPR展開 ▶テレビ番組、テレビ・ラジオCM、SNS等を活用したPR展開	○利用者数維持による収入(指定管理者納付金)の確保 ▶大会の誘致(栃木県プロ選手権大会、栃木県社会人アマチュア選手権大会、栃木県知事盃) ▶新聞広告、インターネット予約サイトを利用したPR展開 ▶テレビ番組、テレビ・ラジオCM、SNS等を活用したPR展開 ▶30周年記念イベント等の開催による認知度向上
SDGs 達成への貢献  	○「健康と生きがいづくり」及び「ジュニアの育成促進」に貢献 ▶シニア&レディース杯の開催(毎月) ▶ラウンド体験ゴルフ教室【5/17:参加者13名】 ▶ジュニア育成委員会【6/26:参加者32名】 ▶ジュニアスクールの開催【8/19:参加者43名】	○「健康と生きがいづくり」及び「ジュニアの育成促進」に貢献 ▶シニア&レディース杯の開催(毎月) ▶ジュニアスクールの開催(8月)

3 総合評価

自己評価等						
1 財務面に係る評価 目標の達成状況 ・目標どおり経常利益を確保した。		(2)事業の取組実績等 ・多様な料金設定等により、シンプル&リーズナブルをコンセプトとした業務展開を図った。 ・ジュニアスクールの開催を通じ、ジュニアの育成促進に貢献した。 ・クラブハウスリニューアルに向けて、詳細設計業務委託を実施した。 ・大会の誘致やテレビ番組、SNS等を活用したPRを展開した。				評価
2 事業面に係る評価 (1)目標の達成状況 ・利用満足度、利用者数ともに目標値を達成した。特に、利用者数は過去最高の38,193人を記録した。						A
評価委員会の評価等						
<ul style="list-style-type: none"> ・財務面について、経常利益を確保し目標を達成できている。 ・事業面について、利用者満足度、利用者数ともに目標を達成できている。 ・令和3年度の取組実績として、ジュニアスクールの開催や多様な料金設定など経営方針に沿ったサービスの提供が図られている。 						評価
						A
	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	
自己評価	A					
評価委員会の評価	A					

今後の取組課題・改善点等						
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、県民ゴルフ場30周年を記念した各種コンペの開催や、国体、県有アニバーサリー施設との連携など積極的にPRし、利用者数の増に取り組む。 ・クラブハウス等施設の老朽化に応じた計画的な改修に取り組む。 ・令和6年度の次期指定管理者選定に向けて、適切に準備を進める。 ・持続可能な社会の実現に向けて、県民ゴルフ場事業を通じたSDGs達成に貢献する。 						

○ 収支の状況

(1) 収益的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	料 金 収 入	計 画 額		19	19	19	19	19
		当 初 予 算 額		19				
		決 算 額	19	19				
	そ の 他 収 入	計 画 額		3	2	3	3	3
		当 初 予 算 額		3				
		決 算 額	14	2				
支 出	人 件 費	計 画 額		0	0	0	0	0
		当 初 予 算 額		0				
		決 算 額	0	0				
	減 価 償 却 費	計 画 額		13	13	14	13	7
		当 初 予 算 額		13				
		決 算 額	13	13				
	修 繕 費	計 画 額		3	6	5	3	12
		当 初 予 算 額		3				
		決 算 額	14	0				
	そ の 他 支 出	計 画 額		2	1	2	4	1
		当 初 予 算 額		2				
		決 算 額	2	0				
経 常 損 益	計 画 額		4	1	1	2	2	
	当 初 予 算 額		4					
	決 算 額	4	8					
剰 余 金 残 高			▲ 1,142	▲ 1,134				

・剰余金の処分は考慮しない。

(2) 資本的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	借 入 金	計 画 額		0	0	0	0	0
		当 初 予 算 額		0				
		決 算 額	0	0				
	そ の 他 収 入	計 画 額		5	26	9	0	11
		当 初 予 算 額		5				
		決 算 額	0	3				
支 出	建 設 改 良 費	計 画 額		12	27	9	11	11
		当 初 予 算 額		11				
		決 算 額	0	3				
	借 入 金 償 還 金	計 画 額		11	11	11	11	11
		当 初 予 算 額		12				
		決 算 額	11	11				
	そ の 他 支 出	計 画 額		1	0	0	0	0
		当 初 予 算 額		0				
		決 算 額	0	0				
差 引	計 画 額		▲ 19	▲ 12	▲ 11	▲ 22	▲ 11	
	当 初 予 算 額		▲ 18					
	決 算 額	▲ 11	▲ 11					
借 入 金 残 高			266	255				

○ 経営指標による経営状況

(単位:%)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
経営資本営業利益率	決算値	▲ 0.52	0.33				
営業収支比率	決算値	67.19	146.17				
経常収支比率	決算値	113.51	160.11				
流動比率	決算値	334.40	376.75				
自己資本構成比率	決算値	85.51	86.03				
有形固定資産減価償却率	決算値	87.42	88.50				

○ 財務面に係る目標の達成状況

(単位:百万円)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
毎期、経常利益を確保	決算値		8				
	評価		A				

○ 事業面に係る目標の達成状況

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
利用者満足度の維持・向上	目標値		4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
	実績値	4.2	4.2				
	評価		A				
利用者数の確保	目標値		35,000人	35,000人	35,000人	35,000人	35,000人
	実績値	31,926人	38,193人				
	評価		A				

賃貸ビル事業

令和3(2021)年度決算と経営戦略収支計画比較

会計名 施設管理事業(賃貸ビル事業)

(単位:百万円、収益的収支は税抜表示、資本的収支は税込表示)

(1) 収益的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	賃貸収入	86	86	77	▲ 9	・賃貸収入は、コ ロナ禍による駐 車場収入の減少 により減
	その他収入	74	74	74	0	
	計	160	160	151	▲ 9	
支 出	人件費	7	7	5	▲ 2	
	減価償却費	30	30	30	0	
	修繕費	3	3	5	2	
	その他支出	72	72	70	▲ 2	
	計	112	112	110	▲ 2	
経 常 損 益		48	48	41	▲ 7	

剰余金残高	65		54	▲ 11	
-------	----	--	----	------	--

・平成28年度からの積み上げによる(剰余金の処分は考慮しない)。

(2) 資本的収支

		計画額 A	当 初 予算額	決算額 B	B-A	備考
収 入	借入金	500	500	500	0	
	その他収入	0	0	0	0	
	計	500	500	500	0	
支 出	建設改良費	10	10	9	▲ 1	
	借入金償還金	550	550	550	0	
	その他支出	0	0	0	0	
	計	560	560	559	▲ 1	
差 引		▲ 60	▲ 60	▲ 59	1	

借入金残高	490		490	0	
-------	-----	--	-----	---	--

経営指標による経営状況

	収益性			安全性		老朽化の状況			
	経営資本 営業利益率 ・経営資本でどれ だけの営業利益 を上げたかで、 高いほど良好	営業収支比率 ・営業活動の能 率で、高いほど 良好	経常収支比率 ・経常的な企業 活動の効率性 で、高いほど良 好	流動比率 ・短期的な支払 能力で、高いほ ど経営基盤は安 定	自己資本 構成比率 ・総資本に対する 自己資本の割合 で、高いほど経 営基盤は安定 (単位:%)	有形固定資産 減価償却率 ・償却対象資産 の減価償却がど の程度進んでい るかを表す指標			
平成29年度決算値	2.75	122.59	123.28	648.47	28.71	56.43			
平成30年度決算値	2.74	121.73	122.15	680.06	32.20	60.11			
令和元年度決算値	4.73	145.07	144.65	726.03	37.18	62.13			
令和2年度決算値	4.19	138.78	138.44	82.78	41.76	64.16			
令和3年度決算値	4.05	137.94	137.85	693.64	46.13	65.54			
説明	<p>賃貸収入の減少等により、事業の収益性を示す経営資本営業利益率、営業収支比率、経常収支比率の3指標は若干悪化したものの、営業利益、経常利益ともに確保できており、経営状況は健全であるといえる。</p> <p>経営の安全性を示す自己資本構成比率は好転しており、流動比率はR3年度に借入金の借換を行ったため前年度と当年度の乖離が大きくなっているが、当年度は高い値を維持できており、経営基盤は安定しているといえる。</p> <p>なお、有形固定資産減価償却率では償却資産の減価償却が6割を超えているものの、経営への影響に配慮しながら計画的に設備更新を進めており、特に問題はない。</p>								

※ 営業収支比率: 単年度営業収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 経常収支比率: 単年度収支の黒字を示す100%以上が必要

※ 流動比率: 短期的に支払うべき債務を支払える現金等がある状況を示す100%以上が必要

施設管理事業(賃貸ビル事業) 目標の達成状況

1 財務面に係る評価

目標の達成状況

	【目標】 健全な運営を確保するため、毎期、経常利益を確保します。
決算値	41百万円
評価	A
評価に係る説明	目標どおり経常利益を確保したため、A評価とした。

2 事業面に係る評価

(1) 目標の達成状況

	入居率の維持	
目標値	R3年度 100%	
実績値	R3年度 100%	
評価	A	
評価に係る説明	目標を達成したため、A評価とした。	

(2) 取組実績等

経営方針	令和3(2021)年度の実績	令和4(2022)年度の実績予定
安全で快適な 施設環境の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○建物・設備の点検・維持管理の適切な実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶空調設備修繕工事 ▶空調用インバータ装置交換工事 ▶柵の実駐車場等監視カメラ更新工事 ○省エネ効果の高い機器の積極的な導入 <ul style="list-style-type: none"> ▶柵の実駐車場等照明のLED化 ○建物長寿命化のための第1期中期修繕計画(R4～R9)に向けた区分所有者との調整を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○建物・設備の点検・維持管理の適切な実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶直流電源装置修繕工事 ▶エレベーター3号機メインロープ修繕 ▶空調用機器修繕工事 ○省エネ効果の高い機器の積極的な導入 ○建物長寿命化のための第1期中期修繕計画(R4～R9)に向けた区分所有者との調整
利益確保による 経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○賃貸入居団体の継続的確保による入居率100%の維持 ○コロナ禍等による駐車場収入減対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶駐車場料金の見直し(隣接駐車場と同等額) ▶料金看板の新設により駐車料金を分かり易く周知 ▶新規開拓のため、営業活動の実施や提携駐車場の表示 ▶月極駐車場の料金見直し(隣接駐車場と同等額) 	<ul style="list-style-type: none"> ○賃貸入居団体の継続的確保による入居率100%の維持
SDGs 達成への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校の職業訓練実習受入れ ○賑わいの提供により「住み続けられるまちづくり」に貢献 ○太陽光発電、節電、節水、リサイクルの取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校の職業訓練実習受入れ ○賑わいの提供により「住み続けられるまちづくり」に貢献 ○太陽光発電、節電、節水、リサイクルの取組

3 総合評価

自己評価等						
1 財務面に係る評価 目標の達成状況 ・目標どおり経常利益を確保した。		(2)事業の取組実績等 ・建物及び設備の点検、維持管理を適切に実施した。 ・栃の実駐車場等照明のLED化により施設環境を改善した。 ・コロナ禍等による駐車場収入減対策の実施により、利益確保に努めた。				評価
2 事業面に係る評価 (1)目標の達成状況 ・目標どおり入居率100%を達成した。						A
評価委員会の評価等						
<ul style="list-style-type: none"> ・財務面について、経常利益を確保し目標を達成できている。 ・事業面について、入居率100%を維持し目標を達成できている。 ・令和3年度の取組実績として、点検、維持管理が適切に実施されているほか、駐車場の収入減対策に取り組まれている。 						評価
						A
	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	
自己評価	A					
評価委員会の評価	A					

今後の取組課題・改善点等						
<ul style="list-style-type: none"> ・経営基盤の強化のため、引き続き入居率100%を維持するとともに、駐車場の利用率向上に取り組む。 ・中期の修繕計画に基づき、施設の長寿命化や省エネ機器への更新に取り組む。 ・持続可能な社会の実現に向けて、賃貸ビル事業を通じたSDGs達成に貢献する。 						

○ 収支の状況

(1) 収益的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	賃 貸 収 入	計 画 額		86	86	86	86	86
		当 初 予 算 額		86				
		決 算 額	81	77				
	そ の 他 収 入	計 画 額		74	74	74	74	74
		当 初 予 算 額		74				
		決 算 額	74	74				
支 出	人 件 費	計 画 額		7	7	7	7	7
		当 初 予 算 額		7				
		決 算 額	6	5				
	減 価 償 却 費	計 画 額		30	26	24	27	29
		当 初 予 算 額		30				
		決 算 額	32	30				
	修 繕 費	計 画 額		3	16	16	16	16
		当 初 予 算 額		3				
		決 算 額	6	5				
	そ の 他 支 出	計 画 額		72	71	75	71	84
		当 初 予 算 額		72				
		決 算 額	68	70				
経 常 損 益	計 画 額		48	40	38	39	24	
	当 初 予 算 額		48					
	決 算 額	43	41					
剰 余 金 残 高			9	54				

・平成28年度からの積み上げによる(剰余金の処分は考慮しない)。

(2) 資本的収支

(単位:百万円)

			令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
収 入	借 入 金	計 画 額		500	0	0	0	0
		当 初 予 算 額		500				
		決 算 額	0	500				
	そ の 他 収 入	計 画 額		0	12	58	57	81
		当 初 予 算 額		0				
		決 算 額	0	0				
支 出	建 設 改 良 費	計 画 額		10	2	51	50	75
		当 初 予 算 額		10				
		決 算 額	0	9				
	借 入 金 償 還 金	計 画 額		550	50	50	50	50
		当 初 予 算 額		550				
		決 算 額	50	550				
	そ の 他 支 出	計 画 額		0	2	48	47	78
		当 初 予 算 額		0				
		決 算 額	0	0				
差 引	計 画 額			▲ 60	▲ 42	▲ 91	▲ 90	▲ 122
	当 初 予 算 額			▲ 60				
	決 算 額	▲ 50	▲ 59					
借 入 金 残 高			540	490				

○ 経営指標による経営状況

(単位:%)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
経営資本営業利益率	決算値	4.19	4.05				
営業収支比率	決算値	138.78	137.94				
経常収支比率	決算値	138.44	137.85				
流動比率	決算値	82.78	693.64				
自己資本構成比率	決算値	41.76	46.13				
有形固定資産減価償却率	決算値	64.16	65.54				

○ 財務面に係る目標の達成状況

(単位:百万円)

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
毎期、経常利益を確保	決算値		41				
	評価		A				

○ 事業面に係る目標の達成状況

		令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
入居率の維持	目標値		100%	100%	100%	100%	100%
	実績値	100%	100%				
	評価		A				